

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書			
6 年 6 月 12 日			
(あて先) 姫路市長			
提出者			
住 所 兵庫県姫路市本町68番地			
氏 名 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)			
独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター 院長 河村 哲治			
電話番号			
079-225-3211			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、5 年度の特別管理産業 廃棄物処理計画の実施状況を報告します。			
事 業 場 の 名 称	独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター		
事 業 場 の 所 在 地	兵庫県姫路市本町68番地		
事 業 の 種 類	一般病院(8311)		
特別管理産業廃棄物処理計画 における計画期間	2024年4月1日から2025年3月31日		
特別管理産業廃棄物処理計画における目標値			
項目	目標値	項目	目標値
排 出 量	455 t	全 処 理 委 託 量	455 t
自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への 処理委託量	t
自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	再生利用業者への 処理委託量	t
自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者への 処理委託量	t
自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
電子情報処理組織の使用に関する事項			
特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		前々年度	t
(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)		前年度	t
※事務処理欄			

計画の実施状況

(特別管理産業廃棄物の種類：)

不要物等発生量
(単位:t)

有償物量	排出量
	① 460

項目	実績値
① 排出量	460
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0
⑤ 自ら熱回収を行った量	0
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩ 全処理委託量	460
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

```

graph TD
    A[不要物等発生量] --> B[排出量 ① 460]
    B --> C[自ら直接再生利用した量 ②]
    B --> D[自ら直接埋立処分した量 ③]
    B --> E[自ら中間処理した量 ④]
    E --> F[④のうち熱回収を行った量 ⑤]
    E --> G[自ら中間処理後の残さ量 ⑥]
    G --> H[自ら中間処理により減量した量 ⑦]
    G --> I[直接及び自ら中間処理した後の処理委託量 ⑩ 460]
    I --> J[⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 ⑪]
    I --> K[⑩のうち再生利用業者への処理委託量 ⑫]
    I --> L[⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量 ⑬]
    I --> M[⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 ⑭]
    I --> N[自社処理を行わずに直接委託処理した量 ⑯+⑰]
    N --> O[直接中間処理委託量 ⑯]
    O --> P[直接委託中間処理後の残さ量 ⑱]
    P --> Q[直接最終処分委託量 ⑲ 460]
    P --> R[委託中間処理後の再生利用量 ⑳-㉑]
    
```

② 自ら直接再生利用した量

③ 自ら直接埋立処分した量

④ 自ら中間処理した量

⑤ ④のうち熱回収を行った量

⑥ 自ら中間処理後の残さ量

⑦ 自ら中間処理により減量した量

⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量

⑨ 自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量

⑩ 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量

⑬ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量

⑭ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

⑮ 自社処理を行わずに直接委託処理した量(⑯+⑰)

⑯ 直接中間処理委託量

⑰ 直接最終処分委託量

⑱ 直接委託中間処理後の残さ量

⑲ 直接最終処分委託量

⑳-㉑ 委託中間処理後の再生利用量

(第2面)

備考 1) ⑯～⑲は、法定様式に追加して、報告をお願いします。 2) ⑳の部分に入力してください。
3) 次の2項目がゼロになるように、各欄に数値を入力してください。

項目	①-(②+③+④+⑫+⑰)	⑩-(⑥-⑧-⑨+⑫+⑰)
計算値	0	0
正誤 チェック	正	正

(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の特別管理産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 特別管理産業廃棄物の種類が2以上あるときには、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前々年度及び前年度における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあつては前年度に実施した電子情報処理組織の使用に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。